

# 日本の経済政策と民主主義

明治学院大学国際学部教授

熊倉正修くま くら まさむら なが

- \* 円安誘導のための為替介入
- \* 不可思議な外国為替資金特別会計の活用
- \* 価格が下落しているのはIT機器だけ
- \* デフレという前提の見直しが必要
- \* 異次元緩和で抱える日銀のリスク
- \* 日本が病気なら他はもつと病気
- \* 未熟な日本の民主主義
- \* 今は経済政策を見直すべき時
- \* 医療・社会福祉の賃金をいかに上げるか
- \* 分水嶺は海外投資家の信認が失われた時か



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は明治学院大学の熊倉先生においていただきました。1967年のお生まれで、東京大学文学部をご卒業後、農林中金やアジア経済研究所などにお勤めになり、ケンブリッジ大学で博士課程を修了されました。その後、いくつかの大学を経て、現在は明治学院大学で経済学を教えておられます。

コロナの問題等で難しい状況になっておりますが、底流にあります日本の経済状況、それからこれまでの経済政策の問題点等につきまして、今後も展望してお話していただきたいと思えます。それでは先生よろしくお願いたします。

## 円安誘導のための為替介入

熊倉 本日はお招きいただきましてありがとうございます。私はいくつかのところに呼ばれるような立派な人間ではないんですけども、昨年、『日本のマクロ経済政策』という新書出版したことでお声がかかったのだと理解しています。マクロ経済というと、財政と金融ですが、為替もあります。日本のマクロ経済政策の一つの特徴は、為替の問題が他の政策にも影を落としていることです。金融、財政政策も円高対策として行われることが多いので、為替の話から始めて、金融、財政のお話をいたします。

日本のマクロ経済政策の大きな問題は、持続性を確保することを前提として政策をやつてな